

○KVBC REPORT  
国内研修「京セラ 新社屋の見学」と忘年会  
○SAY IT

## KVBC REPORT

### 国内研修「京セラ 新社屋の見学」と忘年会



12月4日（金）、年末恒例となったKVBC国内研修では、昨年夏に本社機能の移転が終わったばかりの京セラ（株）の新社屋を伏見区竹田に訪問。同社の経営に対する姿勢や事業展開の方向性について説明を受けたあと、地球環境製品の展示コーナーやファインセラミック歴史館、美術館などを見学しました。そのあとは、お待ちかねの忘年会。昨今の厳しい経済状況をしばし忘れてゲームや歓談を楽しみながら、平成10年を賑やかに締めくくりました。

#### ●京セラという企業について

京セラ（株） 広報宣伝部 本社商品広報課 責任者 早田 芳生氏

#### ◎経営に対する考えと事業展開の特徴

私どもの社は「敬天愛人」とは、「常に公明正大謙虚な心で仕事にあたり、天を敬い、人を愛し、仕事を愛し、会社を愛し、国を愛する心」という意味であり、明治維新で活躍した西郷隆盛さんの言葉です。当社が昭和34年に従業員28名で創業した頃、稲盛和夫・現取締役名誉会長はこの言葉に深く感銘を受け、額に入れて壁に掛けていました。そして、彼が社長に就任した際に正式な社是となりました。

また、経営理念は「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること。」というのですが、これは創業間もない頃に起きたある出来事をきっかけに生まれたものです。当初、稲盛名誉会長らは、自分の技術を世に問うため、自分の技術を試す場として会社を設立しましたが、まだまだお金も経営ノウハウも何もない状態だったため、新しく入った従業員の間で自分たちの将来をもっとしっかり保証してほしいという声を持ち上がりました。そして、稲盛名誉会長が彼らを説得した際に、会社は個人のものではなく公器なのだ強く実感したことが、この言葉に結集されています。そして、当社はもともとエンジニア志向の非常に強い会社ですので、その技術を活かして会社を成り立たせ、人類に貢献していこうということで、創業2年目頃から経営理念になりました。



そして、企業が公器であるということをやより強くみんなで共有するための3つのテーマとして、「社会との共生」「世界との共生」「自然との共生」があります。

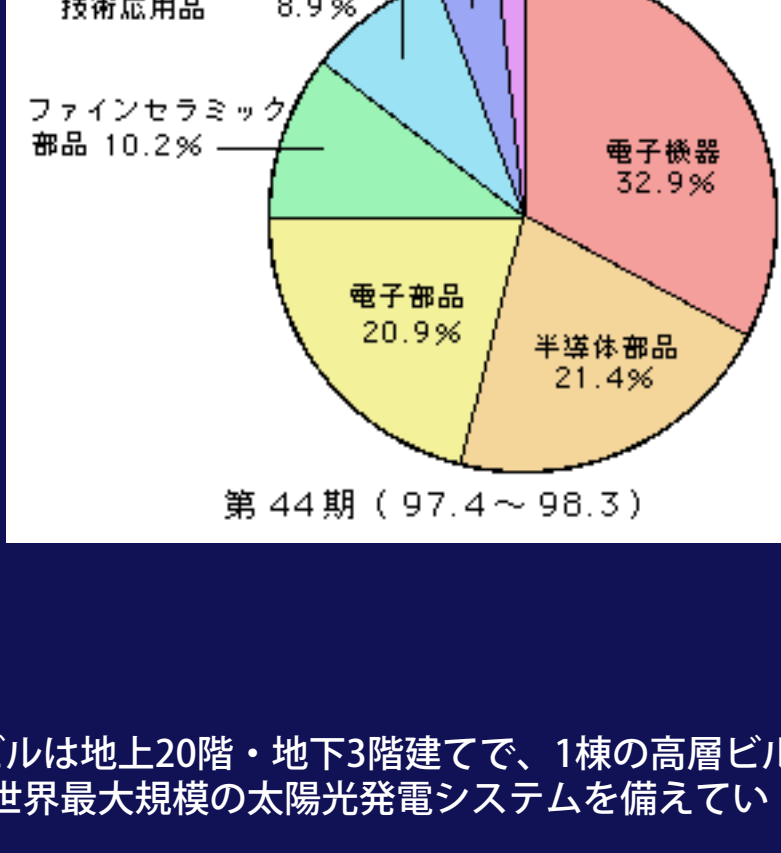
「社会との共生」当社の製品を使っていただいで喜んでいただくことや、当社の製品を使って新しいものをつくっていただくことが何よりの基本。また、新本社ビルにファインセラミック歴史館や美術館を設置しているのも、前庭に彫刻等を配して公園のようにしているのも、この考えからです。

「世界との共生」当社では創業9年目にしてアメリカに販売拠点を設けるなど、早い時期から積極的に海外に進出してきました。これは、必要なものを必要なところで供給しようという考えに基づくもので、海外の経営陣にはほとんど日本人はいません。そして、なるべく現地の人に経営してもらおうようにしています。「自然との共生」太陽電池やカートリッジを使わないプリンターなど、環境関連の商品としてのセラミックの応用に積極的に取り組んでいます。

当社の企業姿勢としては、「人のやらないことをやる」、「人真似はしない」、「最先端のこをやっていく」、「チャレンジ精神を持つ」などが挙げられます。ですからあまり減点主義ではなく、前向きな姿勢で取り組んだことに対しては多少の失敗は許そうではないかという部分もあります。また、重要なのが「一芸に秀でる」ために特定分野を掘り下げていくこと。当社の場合はファインセラミックスに関する製品・技術を提供して社会に貢献していくことを目指しています。

なお、当社の変遷で特徴的なのは、ファインセラミックスを起点として、通信機器をはじめとする様々な先端技術分野を手がけてきたこと。また、米国や欧州に現地法人や合併会社を設立するなど、積極的に海外に進出してきたことです。ただし、これらはM&Aによる買収ではありません。資本提携や資本参加等の話ができるようになったのは創業20年目頃からです。いずれも相手先企業からの申し出によるものです。

そして、異業種・異分野の企業のマネージメント支援に取り組んだことにより、ファインセラミックスからエレクトロニクスや広角レンズ、通信分野などの技術を垂直的に統合することができ、その中から躍進していくことができたといえます。



#### ◎新本社ビルに見られる環境配慮施設

平成10年8月に完成した新本社ビルは地上20階・地下3階建てで、1棟の高層ビルの垂直壁面に設置されているものでは世界最大規模の太陽光発電システムを備えています。

同ビルの特徴は、「機能重視で実質本位」を基本コンセプトにインテリジェントビルとしての機能を備えながら、周辺との調和を考慮したデザインやコミュニティー空間にも配慮していること。敷地内には公園が設けられ、1階・2階にはそれぞれ美術館、ファインセラミック歴史館が設けられています。そして、太陽光発電システムに代表されるように、地球温暖化の防止や資源の有効利用に配慮した環境対応型のビルとなっています。

太陽光発電設備（太陽電池パネル）は南壁面に1,392枚、屋上に504枚が設置され、発電容量は214kW。年間の推定総発電量は約18万kWhとなり、火力発電所で消費される石油に換算して年間45,000リットルが節約できることとなります。これはCO2排出量で年間97.2トン、SOx量で年間133kg、NOx量で年間92kgの削減に相当します。

そして、この太陽光発電システムに加えて、天然ガスを燃料としたガスエンジンによるコージェネレーションシステムも併用しており、日照条件が良い日中は使用電力量の90%以上をこれらによってまかなうことができます。また、曇りや雨の日、夜間などは電力会社から電気を購入していますが、この太陽電池・ガスコージェネ・商用電力を組み合わせた系統連系システムは、全国に先駆けての採用となります。

その他、氷蓄熱式空調機、天然ガス利用の吸収式冷温水発生機、ペリゾーン換気システム、可変式の空調ダクト変風量システム、地下水および雨水の利用など、環境に配慮した各種システムを採用。また、屋上にはヘリポートを設け、前庭の公開空き地を災害時対応設備として位置づけています。

#### ◎新本社ビルに見られる環境配慮施設

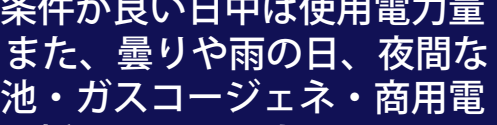
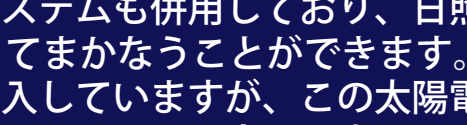
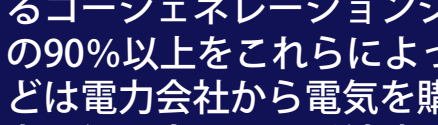
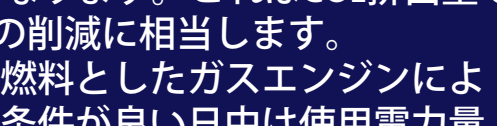
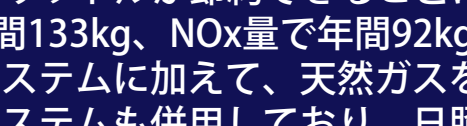
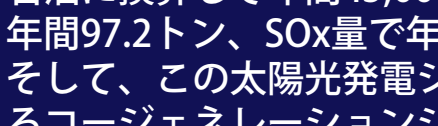
お話のあとは、各自が音声ガイドシステムを持って本社ビル1・2階の一般に開放されている施設を見学させていただきました。

地球環境商品コーナー 京セラファインセラミック歴史館  
ソーラーカーや新本社ビルのファインセラミック技術の基礎知識や技術変遷、応用製品  
模型など、京セラが手がけるなどを展示。関連技術や産業の発展に貢献することを目的に  
環境関連の製品・技術を実物の展示も公開されています。

ショールーム  
通信機器・システム・技術から日用品まで幅広い分野にわたる京セラの製品を展示。

京セラカメラの歴史コーナー  
「コンタックス」の1号機からARIAまで、また「京セラ」「ヤシカ」といった自社ブランドのカメラの歴史を展示。

京セラ美術館  
自社所蔵の乾隆ガラス、ピカソ銅版画347のシリーズ、現代日本画、洋画、彫刻、貴和耀変、等を中心に常設展示。

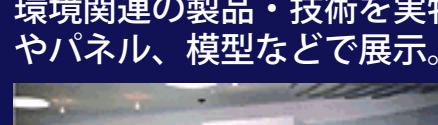
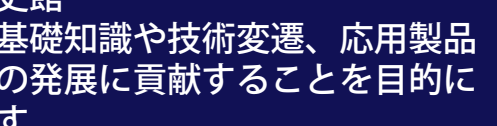
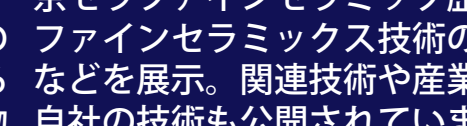
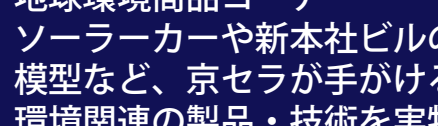


いずれのコーナーも、さすがとうならされる充実ぶりで、一般の方々の見学にも配慮されていたことから、同社の高度な技術力と幅広い事業分野、また社会意識の高さを実感することができました。

忘年会  
屋間はわずかに秋の気配が残る穏やかな一日でしたが、夜ともなるとさすがに冷え込み、一同は素早くタクシーに分乗して、一路、粟田町の「楠荘」へ。向好信代表幹事、西口光博京都都市産業観光局長、石田達同局産業振興課長のご挨拶の後、西河勝男カウンセラーの乾杯で会が始まりました。

祇園・宮川町の舞妓さん、芸舞さんの踊りと料理、お酒に気分が盛り上がってきたところで、いよいよ忘年会幹事によるゲームタイム。今回事、健全なボディネスは健全な肉体に宿る(?)ということ KVBC大運動会が企画され、フリースローで投げるミニ玉入れとビール瓶を使った輪投げの二種目を競いました。

続いて、参加メンバーや会場の楠荘さんからも多くの賞品をいただいて行われた抽選会は、手に汗握る長期間戦。最後は田中久代氏、関義一氏、井畑充弘氏、野中時雄氏がステージに上がり、「道頓堀人情」の歌詞の一部を替えて大合唱。1999年に向けたそれぞれの決意を込めての熱唱が響きわたったあと、恒例の一本締めで幕が降りました。



新年のごあいさつ  
京都市産業観光局長 西口 光博氏

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり、皆様方の御健康と御多幸を心からお祈りいたしますとともに、日頃より、産業観光行政を始め、京都市政の推進に多大な御支援、御協力をお寄せいただいております。日本経済は、低迷状態が長引き、厳しい状況に陥っております。本市の産業をめぐる状況も21世紀を目前に控え、社会経済環境の構造的な変化により、厳しさを増してきており、工場・大学の市街流出、都心部の空洞化、交通環境の悪化、地球環境問題への対応など、解決すべき様々な課題を抱え、明治以来の大きな転換期を迎えております。

しかし、このような時期においてこそ、伝統産業から先端技術産業、観光産業まで、京都経済を支える多様な産業が、それぞれの分野において変革への挑戦を続け、創造的企業家精神を発揮して、我が国産業のフロントランナーにならなければなりません。

21世紀の京都市は、人口の減少と長寿社会の到来が同時に進行し、国際化、高度情報化の一層の進展、地球環境問題の深刻化など、都市のあり方や市民の皆さんの暮らしに大きな影響をもたらす様々な変化に直面するものと考えられます。

こうした時代の変化に的確に対応し、21世紀においても、京都が、緑豊かな潤いある環境を守り、日本はもとより、世界の人々を魅了する美しいまちであり続けることができよう、暮らし・産業・文化・都市の基盤づくりに取り組み「京都にいつまでも住み続けたい」と実感できる、いきいきとしたまち「元氣な京都市」を実現していきたいと考えております。

京都市は、現在、さらなる飛躍を目指し、2025年までの四半世紀を視野においたグランドビジョン（新基本構想）の策定を進めております。このグランドビジョンは、本市の大切なまちづくりの方針となるものであり、21世紀という百年単位の大きな節目に策定する「京都の新たな世紀をひらき、未来にスタートを切る」ための大変重要なものとなります。

平成11年度に策定いたします、このグランドビジョンの中で、これからの世界や我が国社会の動向を的確にとらえ、京都が目指すべき市民の皆さんの暮らしや地域コミュニティ、まちや産業、文化のあり方とその実現への道筋を明らかにしてまいりますので、今後とも皆様方の一層の御支援と御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

平成11年元旦

KVBC INTERNET HOME PAGE  
SINCE 1995.11.7  
Vol.040